

平成31(2019)年度 江戸川区立清新ふたば小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○知 ○徳 ○体	しなやかな子ども(よく考え、進んで勉強や仕事をする子ども) おだやかな子ども(思いやりの気持ちを持って助け合う子ども) すこやかな子ども(ねばり強く、丈夫な体をつくる子ども)	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	～ひとりひとりの豊かな「育ち」と確かな「学び」を目指して～ ○豊かな心・社会性・人間性の涵養(知識⇒知恵⇒行動) ○確かな学力の定着・向上
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○統合新校として3年。地域や保護者の意見交換を積み重ねながら学校づくりを行ったことで、地域や保護者の皆様に「清新ふたば小」の良さを伝えることができ、支援者や理解者が増えた。 ○子供たちにとっても「楽しい学校」「明日が待ち遠しい学校」になってきている。 <課題> 平均年齢35才の教師集団をOITを重ねながら組織的に育成し、授業力向上を図っていくこと。			

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	オリパラ教育の推進	オリ・パラ教育を踏まえた3つの視点に関する取組の充実	実施計画書に基づく年間35時間の取組	児童アンケート肯定的回答90%以上	A	C	○小中で各教科の目標を共通理解できた。 ●実践の振り返りを行っていく。	B	パラリンピックを核に共生社会を学習することにより、共生社会への認識が子供たちが感じ取っていることが素晴らしいと感じた。様々な体験を通して授業をつくっていくことが素晴らしいと感じた。	清臨教での話し合いを深め、目標を共有していく。
	小中連携教育の推進	小中連携を踏まえた児童生徒の円滑な接続の充実	清臨地区小中授業参観・意見交換会を年3回開催	小学校における各学年基礎学力の定着(90%以上)	A	B	○興味をもつ児童が増えた。 ●児童の意識付けを更に行う。	B	地域での意見交換会もあり、各学校の状況も把握できている。以前より、小中連携が充実してきている。	体験で終わらないように、各教科と関連付ける。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探求的な学習の充実	読書科授業の充実35時間図書館の活用	読書好きな児童80%以上調べ学習が楽しい70%以上	A	B	○読書科を中心に図書活用が増えた。 ●活用計画を検討していく。	B	指導に結びついた取組ができている。これまでのことを継続して欲しい。	活用計画の立案・作成見直しが必要。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	「総合的な学習の時間」「読書科」を核としたICT機器を活用したプレゼンテーション能力の育成。	ICT高学年プレゼンテーションソフトを活用した活動・教員によるICT機器を活用した授業	A	B	○児童の活用能力が向上した。保護者や他校の教員から成果につながる意見をいただくことができた。 ★教員による活用力の向上	A	授業参観等におけるICTの活用についてよくできている。積極的に取り組む姿勢が見られた。	今年度の成果と課題を踏まえ、日常の授業の中で、今以上に積極的に活用できるようにしたい。
	今日の教育課題への対応	「特別の教科 道徳」「外国語活動・外国語」への対応 ＜総合的な学習の時間＞を核としたカリキュラムマネジメント	時期学習指導要領への対応	年間指導計画の作成指導と評価についての検討	A	B	○総合的な学習の時間を核として、年間指導計画の作成を行うことにより、授業計画も具体化することができた。 ★更なる検討が必要である。	A	グローバル化してきている学校の状況もある。そのことを踏まえ、さらなる充実へ期待している。	低・中・高学年の取組が現在の子供たちの状況に対応できる生きた授業になっていけるよう、さらに検討を重ねる。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	補習の実施等による、きめの細かい指導の徹底	補習年35回以上	児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実	A	B	○学年で対応することにより、より良い補習を実施できた学年があった。国の学力調査では、国・都を上回ることができた。	A	きめ細かい指導は、保護者にとっても子供にとってもありがたいことだと思う。	学年で補習内容によりクラス分けをするなど学習形態も工夫する。
	確かな学力の向上	ベーシック等を活用した国語、算数(数学)、英語の基礎基本の徹底	ベーシック診断シート年2回	正答率・達成率を過半数が70%以上	A	B	●繰り返し行い、習熟を徹底する。 ●診断の分析をし、活用を図る。	A	教師の確かな意識が認められる。	方法の改善を図り、時間の確保をしていく。
	運動意欲の向上	休み時間や体育の授業における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	全児童が、中休みは外遊びをする	「運動が好き」児童アンケート80%以上	A	B	○8割以上の児童が外遊びをしている。全校運動遊びも定着した。体力テストにも成果が出ている。	A	地道に取り組んでいる。校庭から聞こえてくる声がとても頼もしく感じる。	体育実技などの指導法研修を行う。
相談体制健全育成の充実	いじめ・不登校等の対応	いじめ・不登校に応じた未然防止と早期対応に関する対応の充実	学期ごとに児童アンケートSC・保護者との迅速な連携	いじめ・不登校0・言葉遣い	A	B	●言葉遣いや態度等は引き続き指導していく。	B	言葉遣いや態度については家庭にもしっかり伝え、啓発していかなくてはならない。	学校全体で情報を共有し、一貫した指導を行う。(週、月目標の活用)
特別支援教育の推進	インクルーシブ教育の推進	特別支援教育の理解啓発と授業における工夫	巡回指導教員との連携を深め、相手を意識し思いやりの気持ちをもつ子供の育成理解教育の実施。	互いの理解と成長により自己肯定感が高まり、他者理解が進む。	C	C	○教員間での連携は密にできた。 ●全校児童に理解教育を行っていく。	B	理解はされつつある。子ども同士に優しくや温かさが生まれるように指導して欲しい。	保護者の啓発も重要視する。思いやりの心を育てる。
	エンカレッジルームの活用推進	支援を必要とする児童生徒へのエンカレッジルームを活用しての支援の充実	環境の整備人員の配置	児童一人一人のニーズに応じた適切な指導による学ぶ意欲の向上	A	B	○計画的に運営ができた。 ●支援の仕方について方策を立てる。	A	きめ細かい配慮が認められる。	担任と担当の連携強化。教材教具の準備。